

公益社団法人 全日本鍼灸マッサージ師会
第74回関東甲越地区協議会 群馬大会
全体協議会 議事録

◎日時 令和4年9月24日(土) 13時～16時

◎会場 伊香保温泉 塚越屋七兵衛
群馬県渋川市伊香保町伊香保 175-1

◎全鍼師会会長挨拶(リモート参加) 伊藤久夫

- ・本日基調講演で釜菴先生に来て頂いているので、今後の医師会とのつながりを考えていく。
- ・各都道府県の現状を話していく。
- ・会員と非会員の差別化、魅力ある会にするにはどうするのかを考えてもらいたい。

◎基調講演

講師 釜菴 敏 先生

公益社団法人日本医師会・常任理事

厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード・構成員

演題「新型コロナウイルス感染症の状況と今後の医療について」

- ・新型コロナウイルス感染症の第7波では、新規死亡者数、全体数共に最も多くなった。全体の感染者数が多くなった為に、死亡者数も多くなった。
- ・10代未満の感染が多く、感染拡大の要因になった。10代未満の感染が多くなったことで高齢者の感染につながった部分もあるし、つながらなかった部分もある。
- ・亡くなった人の数が多くなったのは、コロナに感染し肺炎になったことより、元々持っていた基礎疾患が悪くなった為に亡くなってしまったと考える。
- ・新型コロナウイルス感染症は、まだまだありふれた感染症になったわけではない。
- ・PA1→PA2→PA5と感染者が増えている。
- ・新型コロナウイルス感染症の療養期間10日間は現在短縮しているが、発症から7日過ぎても1～2割の人はウイルスを出すことがあるので、7日目以降も他人に感染させない様に注意しなければならない。
- ・感染拡大リスク、重症化リスクに備えた保健医療体制の強化として以下が挙げられる。
 - ①熱が出たり、症状が出た際に対応出来る様にする。
 - ②高齢者施設等に対する対応強化。
 - ③ワクチン接種。
- ・抗原定性検査キットについて
医療品で国の承認を受けた物を使う。
陽性が出たら確定出来るが、陰性でも否定出来ないので、人にうつさないとは言えない。
- ・ワクチンは現在ファイザー社製が12歳以上、モデルナ社製が18歳以上から接種出来

る。今後オミクロン株に対応出来るようになるので、進んで接種してもらいたい。5～11歳の小児に対する専用ワクチンもある。これは5か月間の間をあけて接種する。小児の3回目追加接種も出来る様になっている。

- ・ワクチン接種後のマッサージについて

ワクチン接種後に発熱したり、接種部位が痛い、だるいと言った症状が出ている。急性期は1日・2日で治まるが、症状が残っている場合、施術をして施術との関係を心配するケースがある。症状が残っている人には施術はお勧めしない。特に発熱や接種部位の痛みがある場合には、その部位は外して施術をする。遠隔部位からの施術は特に注意をする必要はない。状態を診ながら施術を行うのが良い。

- ・ワクチン接種3回目の状況は、65歳以上は接種率が良いが、40～64歳はもう少し接種率が上がれば良い。

- ・オミクロン株対応のワクチンは、現在BA1に対するワクチンがあるがBA5に対するワクチンを待つ方が良いのか聞かれるが、効果に差が無いので接種する機会を確保して接種してもらいたい。

- ・ワクチン接種後の副反応としてだるさや頭痛、接種部位の痛みが挙げられるが、皆さんに副反応を理解してもらい接種してほしい。小児の接種率はまだ20%位である。生後6か月～4歳までの小児に対するワクチン接種はまだ承認されていない。

- ・インフルエンザとコロナワクチンの同時接種については同じ腕に打つ場合は少し場所の間隔を空けたり、左右の腕に一種類ずつ打つ等の対応をする。接種日は日がずれる場合もあるが、何日間空ける等の日数の設定は無い。

- ・罹患後症状、後遺症については治るのに時間が掛かったり、症状が残ったりする場合がある。よく見られる症状として以下のものが挙げられる。

- ①だるさや関節、筋肉の痛み

- ②咳、痰、息切れ、鼻詰まり、咽喉の痛み

- ③記憶がいつもと違う、集中力が無い、不眠、仕事の能率が上がらない

- ④嗅覚・味覚の障害→オミクロン株では減っている。

上記の様な症状が診られるが、だるさや咳の症状が長く見てとれる。あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師にはだるさや関節、筋肉の痛みについては相談を受けた場合は、必要な施術を行ってもらいたい。罹患後症状については話を良く聴き、困っている所を一緒に明らかにしていく。

- ・今後の感染の見通しと感染対策

7月から感染拡大し、9月中に落ち着く傾向がみられ、今後減少していくのが見えてきた。しかし感染の減少がただらだと続くことがある。年明けにはまた感染が増えるだろう。インフルエンザも流行るかもしれない。10月中にはインフルエンザワクチンが打てるようになる。

- ・第7波が収まってきた要因

第7波は10歳未満や10代が多かったが、夏休みに入り濃厚接触が減ったことが考えられる。また、追加のワクチン接種で多くの方が免疫を獲得した。

- ・ 今後は年 1 回追加接種するのか、夏と冬に感染者数が多くなるので、夏と冬の前に 1 回ずつ接種するのかを考えていく。
- ・ 現在のタイプが新たなタイプに置き換わっていることは見られない。
- ・ 皆さんにいろいろな注意を払って頂いているが、今後もコロナに対する対応をきちんと行う必要がある。何も手当をしないでコロナ前に戻るのは難しい。手当をした上で社会活動、社会経済活動をしていく。各施術所でもコロナ対策を引き続き行っていく。
- ・ 新型コロナウイルス感染症に対する必要な対策
 - ① ワクチンが必要であり、接種することに同意をしているなら接種する
 - ② 検査の活用
 - ③ 相談出来る窓口を増やす
 - ④ 遠隔診療も制限があるが、もっと取り入れていく
 - ⑤ 感染者の届け出を見直してきたので、状況把握は難しい。
 - ⑥ 自宅療養期間の見直し
 - ⑦ 換気が重要である。パーティション等は空気の流れを考えて使う。
 - ⑧ 基本対策の再検討と徹底。
- ・ 質疑応答

Q1、感染予防を行うことで重症化予防にもなっている為、ワクチンを打つ必要はないのではないか？

A、ワクチンを接種することで 3 回目までは重症化予防だけでなく、発症予防、感染予防効果がある。また他人にうつさない効果もある。4 回目接種は 60 歳以上で基礎疾患がある人、重症化リスクがある人を中心に重症化予防しか効果が分からないまま進めた。4 回目接種は感染予防、発症予防の効果の期間が短い。しかしオミクロンに対応出来ることは確認済みの為、若年者にも接種してもらいたい。小児は重症化等をしないとされているが、死亡例の少なくとも半分は基礎疾患が無かった人達である。

Q2、抗原検査キットは医療機関だけに販売されているが、他機関も購入することが出来た。その際、「定期的な検査目的では使用しない」との誓約書を書かされた。ただ、患者と接する機会が多い施術所のスタッフにも定期的に検査をした方が良いのではないか？

A、抗原検査キットは PCR 検査よりも優秀ではなく、無症状の人を拾い上げることが出来ない。その為、陰性だったから大丈夫とはいかない。「リスクを感じて検査をした」程度の感覚で使用してもらいたい。

施術者がワクチン接種の優先接種対象ではないのはおかしいのではないかと考えられる為、今後機会を見て発言していく。

Q3、後遺症は重症度によって違いはあるのか？

A、呼吸器の症状は重症度と密接に関係している。その他の症状はコロナの重症度とは、はっきりしていない。

Q4、新型コロナウイルス感染症に関して労災認定はされるのか？

A、業種によって感染経路が不明ではあるが、幅広く認めようという動きがあり、実情によって使っている。

- ◎協議会 テーマ 1、コロナ禍における治療院経営
2、各師会の将来ビジョン
3、医療介護連携

座長 群馬県師会 狩野 裕治
副座長 神奈川県師会 大淵 真

記録人 群馬県師会 藤田 智史

(それぞれの代表 1 名から以下の報告が発言時間 5 分ずつあった。)

① (公社) 茨城県鍼灸マッサージ師会

- ・コロナ禍前は鍼灸治療のみの自費診療と保険診療をしていた。また日本体育大柏高校レスリング部でトレーナー活動をしていたが、コロナ禍で全て中止になった。その為、現在は患者を診る機会が増えた。鍼灸師とマッサージ師を雇ってマッサージの施術を増やした。
- ・患者の確保として、週 1 回の施術の人を週 2、3 回の施術につなげた。
- ・介護施設等への出入りは患者と家族の方から施設長や看護師に話してもらった。

② (一社) 栃木県鍼灸マッサージ師会

- ・会員の先生方に研修等に参加してもらっている。
- ・当会がどのような活動をしているのか分からないと言われる。
- ・盲学校の生徒数が 30 名で、今後当会の会員増につながるかは分からない。盲学校で講演をする機会には、施術所経営について話してみる。

③ (公社) 埼玉県鍼灸マッサージ師会

- ・どうやって食べていけるのか想像が難しいので、魅力と将来ビジョンを持って業界に入って来てもらう為に、公益だけでなく、協同組合もあるので、連盟と足並みをそろえていく。
- ・医療介護連携ではスムーズに利用出来る様に、介護予防の取り組みの仕方を提供している。介護予防が事業経営で成功しているので、それを示して食べていけるようにする。

④ (公社) 千葉県鍼灸マッサージ師会

- ・将来ビジョンとしてだが、会員数は減少している。300 名が現在 260 名になっている。オンラインの勉強会をやる所が多くなっているが、会場参加型の勉強会はすぐに埋まっている。そこで今後は会場での勉強会に絞って実施していく。オンラインはオンデマンド

ドのようにして、会場参加の付加価値を付けて行く。またHPには会員だけが見られる動画を上げ、学生は無料で見られる様にする。学生にはオンデマンド視聴で県師会を知ってもらい、資格取得後に入会してもらえ導線を作る。当会からプロフェッショナルを出す様に学生会員を増やしていく。

⑤ (公社) 東京都はり・きゅう・あん摩マッサージ指圧師会

- ・コロナ禍における治療院経営としてはそれぞれの地域で患者の症状は違うので、それぞれにアプローチしている。コロナ禍に対してどの様なニーズがあるかを拾い上げる。
- ・将来ビジョンとしては都からの助成金があるので、参加費無しで勉強会をしている。無料講習会をどうするか、学生をどう拾うか考えているが、一つの方法として参加するのにメールアドレスを抽出し、ワクチン情報や講習会情報等をメールで送り、認知度を広げていく。
- ・医療介護連携に関しては、医療介護連携が出来る様に会に地域包括局を作った。それぞれの区ごとにアプローチしていく。また都内のチェーン店の薬局とあはき師とが連携出来ないかを考えている。

⑥ (一社) 神奈川県鍼灸マッサージ師会

- ・コロナ化における治療院経営については、県としての取り組みはなく、各個人の先生方が苦勞して行っている。
- ・今年度県内で年輪ピックが開催されるので、県内の各師会さんと、関東地区の先生方と準備を進めて行きたい。

⑦ (一社) 新潟県鍼灸マッサージ師会

- ・将来ビジョンとして部員制度を取っている。会員が減り、会員の高齢化もしている。若い会員は理事等になって責任を負うことを嫌うので部員という扱いをし、責任は負わないようにしている。土台を作り、理事が動いているのを見てもらっている。
- ・新潟医療福祉大学の粕谷先生との関係を生かし、県師会に乗る部分は乗ってもらい、大学側とのつながりを作る。県師会、鍼灸師会、大学と良い関係で動いている。また年1回延命フォーラムを開催し、他業種と交流する場所を作っている。社協等ともコンタクトを取り、パイプを作っている。

⑧ (一社) 山梨県はり師きゅう師マッサージ師会

- ・公にして欲しくないが、将来ビジョンとして来季に向け鍼灸師会と統合する予定でいる。県内に2つの公益社団と2つの一般社団とあり、会が4つ存在している。その中で規模の1番目と2番目に大きな県師会と鍼灸師会が会の存続の為に、来年6月に統合出来る様に検討している。

⑨ (公社) 群馬県鍼灸マッサージ師会

- ・将来ビジョンとして非公式に県師会と鍼灸師会の理事が集まり話し合いをした。将来的に一緒にすることに前向きだった。何かの行事をする際にはお互いに補っていく。お互いの会員をそれぞれの会員扱いとして勉強会を行う等考えているが、今後具体的に話を進めて行く。
- ・コロナ禍における治療院経営としては、コロナのせいで療養費が減ったり、施術者として施設に入れない、治療院として患者が減っている現状がある。しかし、ある会員は逆にコロナ禍で患者数が増えたと言っていた。患者に「マッサージはコロナ予防になるのか」聞けたので「マッサージはコロナ予防になる。マッサージをすることで血行が良くなり、体温が上がり、免疫力も上がっていく」と伝えたら、他の患者にも話が伝わり、商売が繁盛したと言っていた。

⑩その他

(一社) 神奈川県鍼灸マッサージ師会

- ・県議会議員の会にワクチン優先接種対策の陳情に上がった。そのおかげで、経営の安定化につながった。
- ・鍼灸師会、日マ会と将来の合併を考えて会を作った。また議連も作った。議連を作ったが、その場が自分たちの存在価値をアピールする場になってしまった。一緒に作ったのに、議員とコミットする様になったら自己主張をするようになり、良い雰囲気ではない。合併をするなら価値観の擦り合わせ等、慎重にする必要がある。
- ・会への入会メリットとして、いかに同意書を書いてくれる医師や関わる保険者、ケアマネ等に話が通じる様にコミットするかが大切であり、会の持っている情報を可視化していくことが大事になる。
- ・会として災害協定が締結出来た。日当 1 万 6 千円支払われる。会員の登録も済んでいる。

(公社) 埼玉県鍼灸マッサージ師会

- ・鍼灸師は選ばれないと食えない、収入が少ない。現在はスポーツや美容をやっている方が多くなってきたので、業界が世の中に知ってもらい目立つようになった。あはき業界をあこがれの職種にしたい。
- ・全国大会を埼玉で開催するので、魅力ある大会にしたい。

(公社) 栃木県鍼灸マッサージ師会

- ・多くの県師会の話で出た統合・合併は正直難しいのではないかと。それぞれの会に会費や思い、積み上げてきたものがあり、お互いの空気感が違うと思う。鍼灸師会や日マ会との合併ではなく、県をまたいで県師会同士が合併出来たら一番良いと思う。その為には学力や経営、技術の底上げを皆さんで意識していくことが大切である。

以上 議事終了